

○音楽科の課題分析と具体的な授業改善計画（令和4年度授業改革プラン 入新井第一小学校）

* 3年度の改善プランの検証

3年度もコロナ禍の影響があり、音楽の授業も大きく影響を受けた。改善プランはたてたものの、歌唱や吹奏楽器に関しては、安全に配慮しながらの取り組みとなったため、プラン通りに遂行することが困難な場面も多かった。打楽器演奏や手拍子での演奏、鑑賞の充実など、教材を工夫したことにより、児童の表現力の向上を目指した。意欲的に取り組む児童がいる一方、技能の習得につまづく児童も見られ、表現力にばらつきがあった。今年度はコロナ禍での音楽の授業であるが、少しずつ歌唱や吹奏楽器の時間も多く取り入れたい。

* 4年度の改善プラン

観点	学年	児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案
知識・技能	一年	<ul style="list-style-type: none"> リズム遊びに楽しく取り組んでいる。 大きな声で楽しく歌えている。 リズムが不規則になったり、拍がずれたりしている児童がいる。 ひびきのない声で歌っている児童が多い。声の出し方の指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 一定の速度を保つなど、リズムに対する感覚を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で短時間でもよいのでリズム遊び活動を取り入れ、スモールステップで取り組むようにする。 歌のイメージを指導してから歌ったり、CDを聴かせたりして、良い声のイメージをもたせる。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> リズム表現に楽しく取り組んでいる。 鍵盤ハーモニカの演奏は、一生懸命に取り組んでおり、1年生の時より難しく長い曲にも取り組めるようになった。 リズムが曖昧であったり、拍がずれたりしている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> タンギングや指使いを身に付けること。 一定の速度を保つなど、リズムに対する感覚を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体表現を取り入れ、拍を感じることを実感させる。 タンギングや指使いの練習を活動として行い、指くぐりや指またぎを滑らかにできるようにする。
	三年	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて元気な声で歌うことができる児童が多い。 鍵盤ハーモニカは拍の流れにのって演奏でき、難しい指使いに対応できる児童が多い。 リコーダーは、指の動かし方に慣れて、タンギングを使って簡単な曲を演奏できるようになった。 地声を強く出してしまう児童が数名見られる。 リコーダーの演奏の時は、息が強すぎる児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸や発音に気を付けて、事前な歌声で歌う技能を身に付けること。 互いの音おきいて音を合わせて演奏する技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 選曲を工夫し、やさしい声で歌える曲を表現したり、歌詞の内容を味わって表現できる授業を行う。 ろうそくの画像を用いて、正しい息の使い方を意識させる。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 響きのある声を意識しながら歌える児童が増えてきた。 リコーダーはサミングや低い音の拭き方を覚え、簡単な曲を演奏できるようになった。 強弱記号の意味を覚えてきた。 地声で押し出そうとする児童がいる。 リコーダーのサミングについては、まだ指が追いつかない児童がいる。特にレから高いミ・ファへの連指が遅い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音色や響きに気を付けて、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付けること。 呼吸や発音に気を付けて、事前な歌声で歌う技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 選曲を工夫し、やさしい声で歌える曲を表現したり、歌詞の内容を味わって表現できる授業を行う。 指遣いの記号を用いたり、「あな・よこ・いるよ」のこつを確認したりし、連指の意識を高める。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 無理のない発声でしっかり歌うことができる児童が多い。 器楽合奏を楽しんで取り組む児童が多い。 歌唱に関しては、少し迫力が足りない面が見られる。 課題に粘り強く解決しようとするより、安易に教師に質問して答えてもらおうとする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けること。 音色や響きに気を付けて、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸や口の開け方などをカードやテレビで提示し、視覚的に理解できるようにする。また高音の響きが得られやすい教材を扱う。 楽譜に書かれていることを読み取ったり、演奏動画を見たりして、練習を工夫させる。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 無理なく、響きのある歌声で歌える児童が多い。 拍の流れにのってリコーダや一器楽合奏を演奏することができる。 歌うことを恥ずかしがる児童がいる。また、高音の響きが足りない。 役割による自然な強弱がついていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けること。 全体の響きを聞いて、音を合わせて演奏すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰にでも取り組める歌や気分が明るくなるような曲を扱い、楽しんで歌うことができるようにする。 正しい演奏の仕方を例で示したり、範奏を聴かせたりして、強弱を理解させる。

音楽

思考・判断・表現力等

主体的に学習に取り組む態度

一年	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊びでは、リズムに合わせた言葉を探して、楽しく取り組んでいる。 ・歌のイメージに合わせて歌うことができる児童が半数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌のイメージに合わせて、声の大きさを調節して歌うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱やCDの声をじっくりと聴かせ、イメージや考えたことなどを発表し、どのように歌ったらよいか考える活動を取り入れる。
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の気分に合わせて歌ったり演奏したりする児童が多い。 ・音楽の要素を感じながら鑑賞できる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏に合わせて歌うこと。 ・語彙を増やして、感じたことを表すのに適した言葉で感想を述べること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏の音を大きく提示したり、手拍子や身体表現をしながら活動して、全体で拍を共有する。 ・言葉のヒントをたくさん提示し、どんな言葉で表現したら良いか考えさせる。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の気分や強弱を考えて歌ったり演奏したりする児童が多い。 ・歌の強弱などを意識せず、いつも大きな声で歌ってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴を捉えて、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が指揮をして強弱や曲の気分を表現し、それに合わせて歌う活動を取り入れる。 ・楽曲の様子をイラストで表したりして、表現のヒントにする。
四年	<ul style="list-style-type: none"> ・強弱や曲の気分に合わせて、音色を考えて表現する児童が多い。 ・思いをもたず、ただ歌っていたりただ演奏したりしている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能を生かしながら曲の特徴を捉えた表現を工夫し、曲への思いや意図をもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の意味や演奏の役割などをワークシートなどで説明し、どのように表現したらよいか思いや意図を育み、言葉で表現したりワークに記入したりする。
五年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を考えて表現したり、つくったりする活動を楽しんで行う児童が多い。 ・曲想を考えていても、技能が追いつかず、表現に変化が付けられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能を得ながら、曲想に合わせてどのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が範奏で表現の違いを理解させる。また、技能が身に付きやすいように、教科書の曲をアレンジしたり、ポイントになる部分を楽譜に書き込んだりする。
六年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合う響きを考え、器楽合奏では適切なマレットや音色を考えて演奏する児童が多い。 ・どのような音色が適切か考えることに戸惑う児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能を生かしながら曲の特徴にふさわしい表現を工夫すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音色を聴かせ、音色による表現の違いを感じ取らせる。また周りとも思いや意図を伝え合い、どのように表現したら良いか考えさせる。
一年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌やリズム遊びに楽しく取り組んでいる。 ・活動自体は楽しく取り組んでいるが、めあてを意識して取り組めていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のめあてを明らかにして、そのめあてを意識しながら活動できるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握し、適切なめあてをもたせながら取り組ませる。レベルごとにめあてをもたせ、どこまで取り組んだら良いか目標をもって活動できるようにする。
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や鍵盤ハーモニカ、簡単な打楽器を使って演奏することにも進んで楽しみながら、取り組んでいる。 ・どのように合わせて表現したらよいか分からず、戸惑っている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と気持ちを合わせて表現して、音楽活動の楽しさを体験すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の範奏で元気な音、やさしい音など音色の違いを理解させ、どのような音色を選び出して表現したらよいか考えるヒントにさせる。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の表現に楽しく取り組んでいる児童が多い。 ・自分の表現に集中してしまい、周りとの調和させられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と気持ちを合わせて表現して、音楽活動の楽しさを体験すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで分けて練習したり、ペア学習を行ったりして、身近な人と合わせる意識をもたせる。どのような音色で表現したら良いか考え、工夫しながら取り組むようにする。
四年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことや演奏することを楽しんで取り組んでいる。 ・めあてをもって取り組んでいる児童が多いが、教師の働きかけがないと取り組めない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい思いや意図をもって歌ったり、演奏したりして、音楽活動の楽しさを体験すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように歌うか、どのように演奏するかについて提示すると同時に、思いや意図を言葉で表現させ、具体的な表現の手立てへとつなげられるようにする。

度	五年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の活動に意欲的に取り組み、楽しみながら歌ったり、演奏したり、つくったりしている。 ・教師の指示がないとどのように活動して良いかわからない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽活動に関心を持ち、積極的にかかわっていこうとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間のめあてや活動の手順をしっかりと示すと同時に、どのように表現するかについて発表するなどして、自分から主体的に音楽活動に取り組むようにする。また、自分の取り組みについて振り返りもしっかり行うようにする。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽のどの活動にも意欲的に取り組み、上手に表現できる児童が多い。 ・楽譜通りの演奏で満足してしまう児童がいて、自分なりの思いや意図をもつことができないでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい思いや意図をもって歌ったり、演奏したりして、音楽活動の楽しさを体験すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の範奏を聴かせ、どのように表現を深めていくか考え、発表させる。また、おさらい・復習を行い、過去に取り組んだ楽曲での活動をヒントにして、自分の表現に生かすようにする。